

性の多様性に関する市政モニターアンケート結果

市民課戸籍係

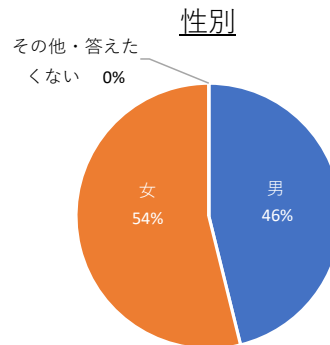
調査期間：令和4年7月15日（金）～7月29日（金）

モニター数：200人

アンケート回答者数：130人 回答率65%

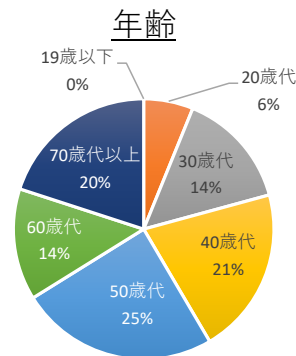
【問1】あなたの性別は

性別	人数	割合
男	60	46%
女	70	54%
その他・答えたくない	0	0%
合計	130	100%



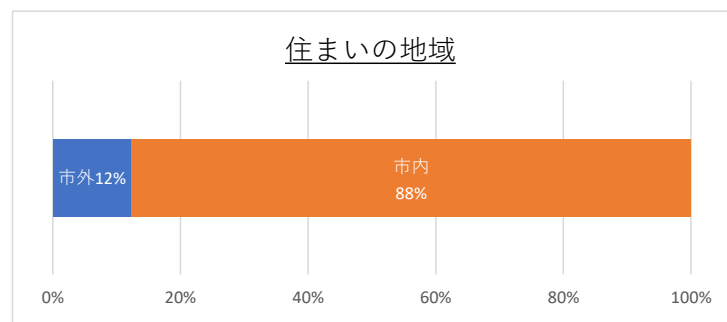
【問2】あなたの年齢は

年代	人数	割合
19歳以下	0	0%
20歳代	8	6%
30歳代	19	14%
40歳代	27	21%
50歳代	32	25%
60歳代	18	14%
70歳代以上	26	20%
合計	130	100%



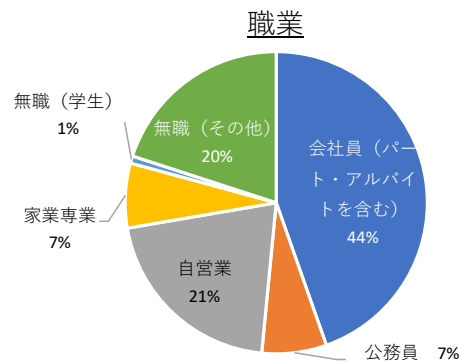
【問3】どちらにお住まいですか

項目	人数	割合
市内	114	88%
市外	16	12%
合計	130	100%



【問4】職業は

項目	人数	割合
会社員（パート・アルバイトを含む）	58	44%
公務員	9	7%
自営業	27	21%
家業専業	9	7%
無職（学生）	1	1%
無職（その他）	26	20%
合計	130	100%

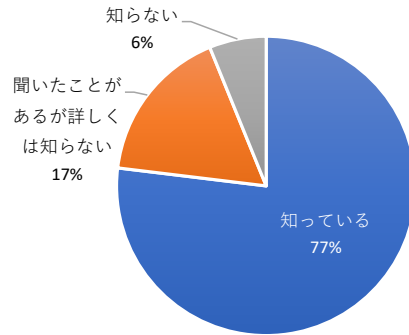


【問5】「LGBT」という言葉の認知度

項目	人数	割合
知っている	100	77%
聞いたことがあるが詳しくは知らない	22	17%
知らない	8	6%
合計	130	100%

「LGBT」とは、L：レズビアン（女性の同性愛者）、G：ゲイ（男性の同性愛者）、B：バイセクシュアル（女性にも男性にも恋愛感情を持つ人、両性愛者）、T：トランスジェンダー（「からだの性」は女性でも「こころの性」は男性というように「からだ」と「こころ」の性が同じではないため違和感をもつ人）の頭文字をとった言葉で、性的少数者の総称の一つです。

「LGBT」という言葉の認知度

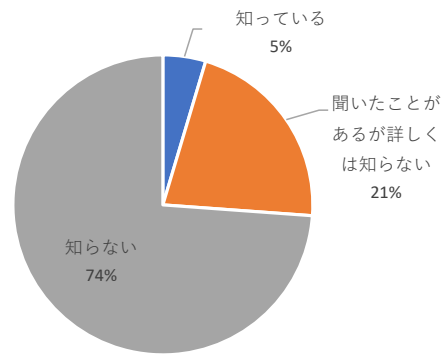


【問6】「SOGI」という言葉の認知度

項目	人数	割合
知っている	6	5%
聞いたことがあるが詳しくは知らない	28	21%
知らない	96	74%
合計	130	100%

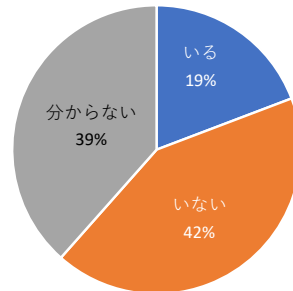
「SOGI」とは、Sexual Orientation（性的指向、好きになる性）と Gender Identity（性自認、自分の性をどう認識しているか）のアルファベットの頭文字をとった言葉で、誰もが持っている性のあり方をとらえた言葉です。

「SOGI」という言葉の認知度



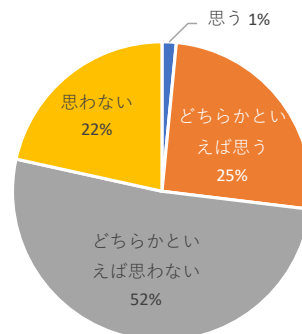
【問7】あなたの周りにLGBTと思われる方はいらっしゃいますか。

項目	人数	割合
いる	25	19%
いない	55	42%
分からない	50	39%
合計	130	100%



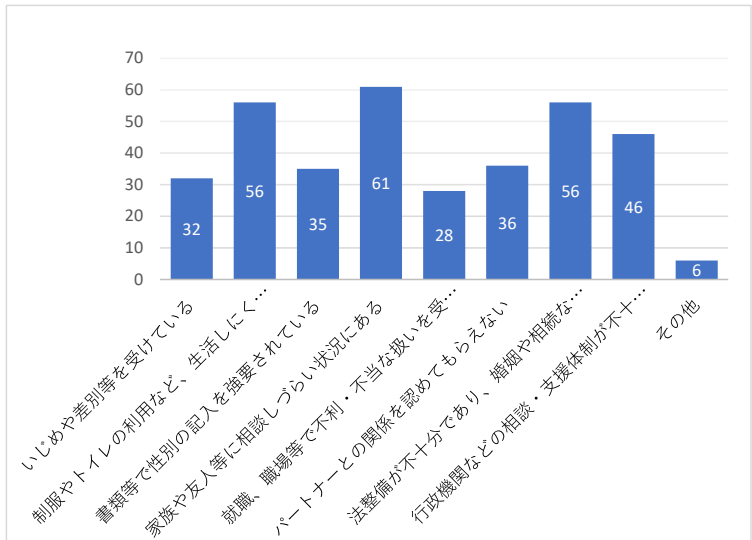
【問8】LGBTの方々にとって生活しやすい社会であると思いますか。

項目	人数	割合
思う	2	1%
どちらかといえば思う	33	25%
どちらかといえば思わない	67	52%
思わない	28	22%
合計	130	100%



【問 9】「どちらかといえば思わない」「思わない」の理由（複数選択可）

項目	回答数	割合
いじめや差別等を受けている	32	25%
制服やトイレの利用など、生活しにくい状況にある	56	43%
書類等で性別の記入を強要されている	35	27%
家族や友人等に相談しづらい状況にある	61	47%
就職、職場等で不利・不当な扱いを受けている	28	22%
パートナーとの関係を認めてもらえない	36	28%
法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けている	56	43%
行政機関などの相談・支援体制が不十分である	46	35%
その他	6	5%

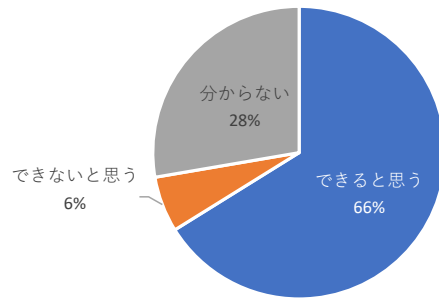


「その他」の自由意見

- ・学校など、制服の自由がない。
- ・「男らしさ」「女らしさ」といった、昔ながらの考えがあたり前のようにある。
- ・学校に性について悩み相談カウンセラーを置くべきだと感じている。
- ・家族の理解を得られない苦悩

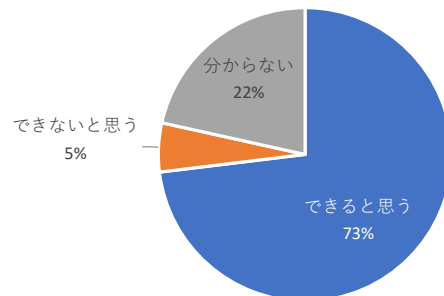
【問 1 0】家族や友人がLGBTなどであった場合、これまでと変わりなく接することができますか。

項目	人数	割合
できると思う	86	66%
できないと思う	8	6%
分からない	36	28%
合計	130	100%



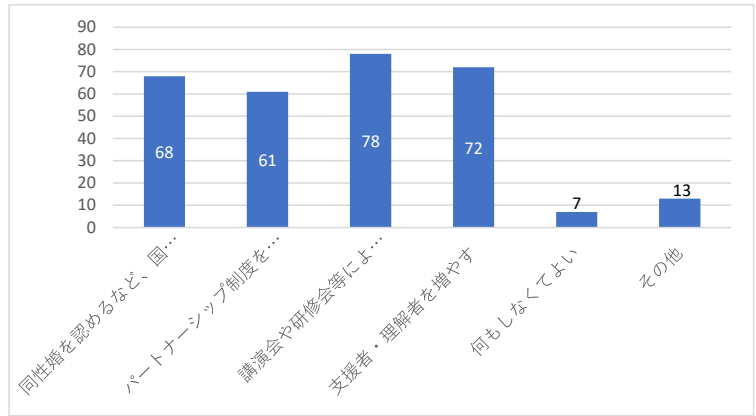
【問 1 1】学校や職場の人がLGBTなどであった場合、これまでと変わりなく接することができますか。

項目	人数	割合
できると思う	95	73%
できないと思う	7	5%
分からない	28	22%
合計	130	100%



【問12】LGBTの方が生活しやすい世の中にするための取組（複数選択可）

項目	回答数	割合
同性婚を認めるなど、国の法整備を進める	68	52%
パートナーシップ制度を設け、支援する	61	47%
講演会や研修会等により、正しい理解の促進に努める	78	60%
支援者・理解者を増やす	72	55%
何もしなくてよい	7	5%
その他	13	10%

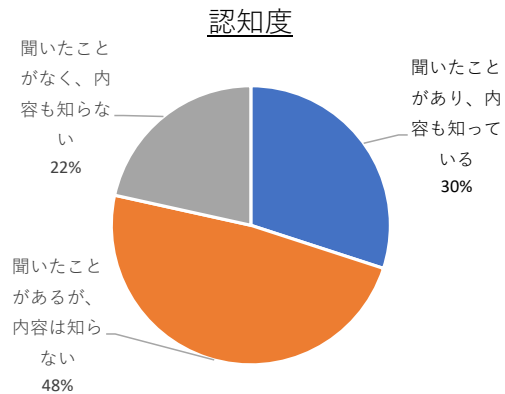


「その他」の自由意見

- ・先日TVに出演されているカップルを見ました。素敵に生きているお二人に心から感銘を受けました。“知る”って大事だと思いました。私の父など頭から大反対すると思います。自分の父ながら残念です。
- ・義務教育から、そう言う問題を取りあつかい、柔軟な考え方が出来る様に、教育の中で知識を広げる事が大事だと思う。
- ・学習会、講習会など増やしてほしい。頭では理解しているつもりでも実際はどうか自信がない。何回も何回も学習の要があると思っています。
- ・現実問題として、身近に誰もそういう人はいないので頭の中ではわかっているけど、実際どう接するか、よくわからない。
- ・自分に偏見や差別が無く、実際、近く存在しているが、そう言った様子がない為。その本人に尋ねたことはないが...
- ・義務教育のプログラムにLGBTについて、もっと深く教育を行う。
- ・広報や書類の配布等で広く理解を求める。
- ・子どもを産む事がどんなに大切かを教育していくべき。その時の気持ちだけではなく未来をもっと考えるべき。
- ・トイレの整備は必要だと思う。
- ・「時間がかかる」ということをまずは認識。歴史的に抵抗を受けるが次第に大らかになるものと思う。

【問13】「パートナーシップ制度」という言葉の認知度

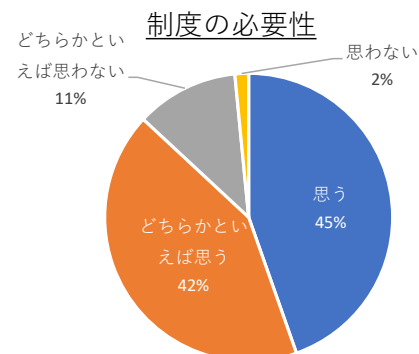
項目	人数	割合
聞いたことがあり、内容も知っている	39	30%
聞いたことがあるが、内容は知らない	63	48%
聞いたことがなく、内容も知らない	28	22%
合計	130	100%



「パートナーシップ制度」とは、性的少数者のカップルを婚姻に相当する関係と公認する制度（ただし、法的に婚姻と同等の扱いにはなりません。）です。

【問14】「パートナーシップ制度」が必要であると思いますか。

項目	人数	割合
思う	58	45%
どちらかといえば思う	55	42%
どちらかといえば思わない	15	11%
思わない	2	2%
合計	130	100%



【問15】「LGBT」や「パートナーシップ制度」について、ご意見があればお聞かせください。

・気づかないだけで、カミングアウトできない人はいると思います。そんな方たちに生きやすい環境になるように法の整備が大切だと思います。法で認められなかったら、いつまでたっても理解できる人だけ理解できるというような少数派のままという印象にとどまってしまうのではないかと思います。

・まだまだ、これからです。理解啓発も、制度の整備も。
・性的少数者について、まず法的に認め、広く何回も講習会・学習会を開催すべきでは?(この歳まで知らずにきたこと申し訳ないです)

・男に産まれた。女に産まれた。それと同じ事だと思う。ただ見かけと心の性別が違う事で一番なやんでいるのは本人。何も悪くないし悪い事でもない。だから回りの理解が一番だと思う。この方々が生きやすい世の中になって欲しいです。

・制度を整えば、カミングアウトする方も増えると思いますが、世の中の理解が増えての事だと思うので、まだ、自分の中におさえられている方もいらっしゃると思います。(特に年齢が上の方)人間は、全ての人が尊重されて生活していくのがいいと思いますので、このような制度は、どんどん進めていってほしいです。期待しています。

・男女格差(特に仕事面)が是正されていない点も多いと思うので、LGBTについて、理解する(職場環境を整える)のは難しいのではないのでしょうか。

・性的指向に関係なく、人生を一緒に歩める(隠すことなく)環境が鹿屋市でもつくられたら素敵だなと思います。パートナーシップ制度が導入されることを願います。

・我々の世代ではこの問題は意味が無く特に関心はありません。

・実際に、困っている方にコンタクトをとり要望や、意見をきく。

・心の痛みを解いてあげられるように周りの人達が気配りするのが一番良いのですが、当人たちも心を開いて接する事をすれば早いような気もしますが、その前に講演会・研修会等を広めて正しい理解の促進に努めてほしい。

・若い人は理解している人も多いと思いますが、世間でのいじめと一緒に、心から、理解し合うのはむずかしいのかもです。いじめがなくならないのにLGBTに対しての偏見もなくならない気がします。

・難しい問題であるが、少数者の方の権利を守るためなら必要である。

・自分自身あまり関心がなく知らない事が多い。これからは、少しずつ知っていききたいと思う。

・自分の親族や、まわりにLGBTの方を知らないので身近に感じていません。でも当人達は困っていると思うので、支援は必要かと思います。

・その制度を認めて、婚姻が成立しても大々的に公表しない。書類提出時の匿名、待ち合い席などプライバシーに注意する。

・「性的少数者」について、今も昔も気にする人は気にする人、気にしない人は全く気にしていないと思う。

・最近では都心のほうから少しずつパートナーシップ制度を導入しており、昔よりはLGBTに対し理解が深まっていると思います。これからも導入する自治体が増え、誰もが生きやすい世の中になればいいと思っています。

・家族なのに、子供や夫婦ではないという理由で同居できなかったり、病気の告知をうけられなかったりという話を聞きます。”大切な人”に性別も年齢も関係ありません。みんながそう思える社会になって欲しいです。

・制度とかも大切かもしれませんが、少数者の方々、自身の性格もそれぞれだと思います。相談、公表できずに困っている人も多いのだらうと思います。

・田舎ほど、性の多様性について理解がないように感じる。「男らしさ」「女らしさ」といった昔ながらの考えは、子どもの時から植えつけられる。親世代はもちろん、今を生きる子どもたちへの教育、研修の場を多く設ける必要があると思う。

・少数者への偏見や不利益が生じない様になって欲しいです。

・鹿屋のような田舎で、高齢者の多い町では、若者よりも高齢者に対してLGBT等に対して正しく理解してもらう必要があると思う。

・”ご結婚”という事より自分の人生を歩いていくにあたって、社会と秩序を守る大切さを認識した上で、誰に対しても自分の生き方を理解してもらえ人間性になる事。それが周りトラブルにならない様になると感じています。

・当事者じゃないとわからないと思う。

・パートナーシップ制度の良い点、問題点はどのようなものかを知りたいと思った。

- ・直接、近くに対象者がいないので良く理解できません。
- ・若者ほど理解があり年配者ほど教育的歴史的に抵抗があるだろう。でももう大らかになっていいと思う。今苦悩する人もいるがこれまでも新たな未来に期待して託してきた人たちもたくさんいたのでは・・・世代が更新されるにつれ容認者は増えていくはず。途切れずに「主張」を続けて欲しい。
- ・小学生のころから、あるいはもっと保育園、幼稚園のころから、性についての教育をとりいれると良いと思います。特に、小学校で多様な性についておしえることはイジメの防止にもつながり、自己肯定感を保てるのではと思います。
- ・他人の性的指向にとやかく言うつもりは全くありませんが、共感を求めたり、理解を押し付けたりしてほしくない。それぞれの価値観に従って生きていけばよい。尊重はしますが、私の価値観では受け入れられない。